

## ウラジオストクでの出会い

国際文化学科 2年 長崎春花

私は、9月8日から12月29日までの約4か月間、ロシアのウラジオストク国立経済サービス大学に留学してきました。私は大学に入学した時から、どの言語を選択したとしても留学に行きたいと考えていました。なので、留学するかどうかという点では全く悩みませんでした。しかし、いざ留学することが決まってからは、楽しみという気持ちだけでなくロシア語の力という点で不安と焦りが大きくなっていきました。新しい単語を覚えたつもりでも、すぐに忘れてしまったり、他にすることがあると言ってロシア語の勉強をしなかったりと、そんな自分に嫌気がさすこともありました。そんな中、とうとう出発の日をむかえました。前日まで準備に追われて、とても慌ただしく家を出発していったことを覚えています。ウラジオストクに着くまでも、飛行機が遅れたりして緊張と不安でいっぱいでした。ウラジオストクの空港に着いて、大学に向かうまでの車中が1番のピークでした。何よりも不安だったことは、ルームメイトのことでした。私は外国の子と同じ部屋が良いと希望したので、他の国の子と一緒に部屋になることになっていました。ロシア語は簡単なあいさつと、天気の話くらいしかできない！どうしよう！！もっと勉強しておけば良かった、という不安でいっぱいでした。一緒に留学に来た日本の子と一緒に部屋にすれば良かった…とも思いました。しかし、実際に寮に着くと、その不安は少しなくなりました。というのも、同じ寮の韓国からの留学生の子たちが廊下で私たちのことを歓迎してくれたからです。みんなで1人ずつ自己紹介をしました。まだ、不慣れなロシア語でたどたどしくしか話せなかった私たちを、同じ寮の子たちは温かく迎えてくれました。私と同じ部屋の子は、韓国人のНамджу(ナンジュ)という子でした。優しそうな子で、私はとても安心しました。しかし、最初は全然ロシア語で会話をするのができなくて私も彼女もどうしようという感じでした。それから、英語を交えて話すようになり、その後だんだんロシア語も使って話せるようになりました。留学を終えた今、彼女と出会うことができたこと、他にもたくさんの人たちと出会うことができたことをとても嬉しく思うし、本当に一生の思い出です。今回の留学は、私にたくさんのお出会いをもたらしてくれました。いろいろな人と出会う中で、自分自身で成長したと思うところ、また自分の直していきたいと思うところなどたくさんありました。自分の将来について考えたりもして、自分を見つめなおす良いきっかけとなったと思います。これから、私がウラジオストクで出会った人びとと、体験したことについて少し話したいと思います。

### <授業について Урок>

私たちは、2つのグループに分かれて他の国の留学生と一緒に授業を受けました。私たちのグループのгруппа 7は、とても人数変動が激しくて最初は私たち日本人3人

と、中国人が3人の6人グループだったのですが、最終的には日本人3人、中国人5人、韓国人2人、北朝鮮から来た人が1人、ラオスから来た人が3人いました。総勢10名以上で、他のグループと比べてもとても人が多かったと思います。狭い教室で授業をするときは、みんなでぎゅうぎゅうになって授業をしていました。しかし、その分とても賑やかなグループで楽しく授業ができたと思います。

最初の方の授業は、先生が言っていることがほとんど聞き取れなくて、ノートをとるということよりも、先生の言っていることをしっかり聞いて質問に答える、ということに必死でした。それも2割3割答えられれば良いほうでした。他の国の子たちは、先生が理解しているか尋ねると、分かったと答えることが多くて、理解できなかったのは私たち日本人だけという状況が多くありました。そういう時でも、他の国の子たちは私たちに分からないところを教えてくれたりして助けてくれました。先生が私たちのためにもう一度解説をしてくれている間も、彼らは優しく見守っていてくれました。

最初の授業では、必ずといって良いほど自己紹介をします。自己紹介では、名前や出身地の他に、どのくらいロシア語を勉強しているの？という質問をされることが多かったです。私たちは約1年間ロシア語を勉強してきて、授業についていくのがやっとという状況だったのですが、他の国の子たちは2年勉強している人、4か月している人など様々でした。どの人も私たちよりロシア語の力があってすごいと思う反面、2年間で自分は彼らのようにになれるのだろうか、1年間勉強しているのにこの程度しかロシア語を話せないのか…とも思いました。決して、勉強で人と比べるものではないと思いますが、彼らの存在が私の学びに対するモチベーションを上げてくれたことは確かだと思います。それから、私は自分の今までのロシア語の勉強を振り返って、まず決定的にロシア語に触れている時間が足りないなと思いました。学習時間の他に、普段の生活でロシア語を取り入れることが必要だと強く感じました。留学中に一番強く感じたことで、日本で先生方にも言われていたことなのですが、言語は実際の生活で自分で使わないと身につかないということです。実際に外出した時などに、人と話して自分が使ったフレーズや単語は、ノートに書いて読むよりもはるかに記憶に残りました。だから私は、道を聞いたり、チケットを買ったり簡単なことしか話さないとしても、なるべく人と話す機会を大事にするようにしました。

実際の授業では、色々な科目を勉強しました。文法、リスニング、リーディング、歴史、音楽などたくさんの科目を勉強しました。その中でも特に印象に残っている授業を二つ紹介したいと思います。

一つ目は、リスニングです。リスニングではCDの会話を聴いたり、先生が話す分を聞いて質問に答えたりしました。中でも私が楽しみだったことは、ロシアの昔のアニメ(мультфильм)を観る授業でした。私は留学に来る前は、ロシアのアニメといえば、チェブラーシカしか知らなかったのですが実際にはチェブラーシカは、一度も観ることはなくМалыш и Карсонなどを観ました。アニメは視覚的にも楽しく、そ

の時代のロシアの文化にも触れることができ良かったのですが、セリフによってはとても早口のものがあって何回聴いても聞き取れなかったものもありました。しかし、何回も繰り返し観ていると不思議と自然と覚えていたりすることがあってアニメや映画を観て勉強することも良いなと思いました。

二つ目は、リーディングです。中でもАнна先生の授業です。なぜ印象に残っているのかというと正直この授業が苦手だったからです。単純に先生が厳しかったということもありますが、授業では辞書を一切使わせないということが先生の方針でした。それが、私にはとても苦痛でした。特に、ある単語を別の言葉で言い換えるということがとても苦手でした。そもそも知っている単語が少ないので、言い換える単語自体の意味を知らない時はもうお手上げ状態でした。他にも先生の言ったことで分からない単語があって、先生に解説してもらっても、解説に出てきた単語が分からない時が多くありました。必死にノートに分からなかった単語をメモして、後で確認するというのを何度もしました。しかし、とても苦痛だった授業ですが、この授業で自分が必死に思い出して答えた単語やフレーズは、他の授業で勉強した単語やフレーズよりも覚えている、ということに気付くようになりました。私は分からない単語はすぐに辞書で調べる癖がついていたのですが、辞書に頼りすぎないことも大切だと思いました。

#### <ウラジオストクで出会った人びと Человек>

私は、留学するまでずっと地元の学校で実家生活で日本から出たこともありませんでした。そんな限られた範囲で生活していた私は留学して一度にたくさんの、しかも色々な国の人びとに出会いました。学校の中でも、町に出かけても異文化に出会いました。一見不愛想な食堂やスーパーのおばさんも、こちらが「ありがとう (спасибо)」と言えば、「どういたしまして/どうぞ (пожалуйста)」と言ってくれます。私たちが道が分からなくて困っていると、こちらが話しかけなくても道を歩いているおじさんや、おばさんが親切に話しかけて助けてくれました。スケート場に行った時は、中学生くらいの男の子・女の子たちが初対面にも関わらず私たちに滑り方を教えてくれました。ロシア人だけでなく、どの国の人もとても親切な人が多かったように思います。

最初に書いたように、ルームメイトのНамджуと友達になることができたことが、留学して一番良かったなと思うことです。最初に会った時、とても優しくな子で安心したのですが、私の方がロシア語をあまり話せないということで、なんだか一緒に居づらくて隣の部屋の、一緒に留学に来た子の所にいることの方が多い時期が最初の1, 2週間続きました。これじゃだめだな、と思いつつもそんな生活を続けていた時に部屋に戻ると、Намджуが私に話しかけてきました。「春花はどうして、いつも隣の部屋に行ってしまうの？さみしいよ。私のことが嫌いなのか？」と言われて、私は自分がしていたことにとっても後悔しました。相手に対してもひどいことをしていたし、自分も心の中では友達になりたいと思っても、ロシア語ができないということだけで相手を避けていた

ことに後悔しました。この出来事があってから私は、とりあえず自分の部屋にいる時間を長くしようとしました。そして、ロシア語でなくても英語で彼女と会話をするようにしました。話をしていく内にだんだんと相手のことを知り、同い年で同じ年の妹がいて、など共通点もたくさん知ることができました。Намджуは、以前に日本語を勉強していたことがあって日本語であいさつをしてくれることもありました。私も、韓国語を彼女から少し教えてもらって、私たちの部屋では寝るときにロシア語と日本語と韓国語でおやすみと言って寝ることが習慣になりました。留学してしばらくすると、私もロシア語を少しずつ話せるようになってきて、だんだんと会話もロシア語が中心になりました。仲良くなってからは、Намджуと彼女の友達のスミン(スミン)と一緒に留学に来た友達と何回か町に出かけました。一緒にご飯を食べたり、買い物したり、写真を撮ったり、おしゃべりをして過ごしました。色々なことを話しました。将来の夢の話をした時に、私は漠然とロシア語を使いたいなというくらいしか考えていなかったのに対して、彼女たちはキャビンアテンダントになりたい、というようにはっきりとした夢を持っていました。授業でも、将来の夢の話が出てくることがあって他の人ははっきりした目標や夢を話していて良いな、うらやましいなと思いました。みんなの話を聞いて、自分の将来についてきちんと考えてみようという良いきっかけになりました。楽しい日々はあっという間に過ぎてしまい、とうとうНамджуたちが帰国する日が近づいてきました。彼女たちが帰る日は私たちが帰国する1週間くらい前だったのですが、荷造りが進んで空っぽになっていく本棚を見ているのがとてもつらかったです。Намджуが帰る前々日に、彼女から手紙をもらいました。そこにはあなたがルームメイトで良かった、と書いてありました。すごく嬉しいのと、さみしいので涙が止まりませんでした。帰国の日もさみしくてみんなで泣きました。自分が帰国する時よりもつらかったです。Намджуと必ずお互いの国に行く約束したことは、私がロシア語を勉強する励みになっています。

報告書に書くことができなかつたけれど、他にもウラジオストクで出会った大切な人がたくさんいます。色々な人と出会い、たくさんの思い出を作ることができたことを本当に嬉しく思います。留学して本当に良かったです。

最後に、

留学してしばらくたった頃、日本でのロシア語の授業で使っていたロシア語の歌の歌詞カードを持ってきていた子がいたので見せてもらう機会がありました。すると、1年生の頃はほとんど読むことさえできなかった歌詞がスラスラ読むことができるようになっていたことに、とても感動したことを覚えています。歌詞の意味も大体理解できました。自分ではあまりロシア語が上達している実感がなかったので、とても嬉しかったです。だから、来年度以降留学に行く後輩にはぜひ歌詞カードなど、留学する前は全然分からなかったロシア語の物を持っていくことをおすすめします！きっと、自分では気づかな

くともロシア語が上達しているということに気付くことができ、モチベーションも上がると思います。

本当に最後になりますが、ウラジオストクで出会ったすべての人々、日本で支えてくれた家族・先生方、友達、何より一緒に留学することができた仲間感謝したいです。一緒に留学した仲間には、たくさん迷惑もかけました。その分たくさん楽しい時間も一緒に過ごしました。この6人で、ウラジオストクに留学できたことを本当にうれしく思います。Спасибо большое！！



▲グループ7のみんなと



▲Сумин(左)と  
Намджу(右)とカフェで



▲スケート場で出会った女の子と男の子たち

